

巻頭言

「手作りの大学教育改革のために」

本学の大学教育に関する研究成果などの公表活動の一つとして「中部大学教育研究」を毎年1号ずつ発刊しています。今年は第6号の発刊となりました。この学術雑誌は、本学の教育現場での教育実践や教育改革の中で浮き彫りにされた問題点や課題を抽出・整理し、いろんな仲間や方法で工夫・改善した、その過程と結果をまず学内外の大学教員で共有し、共通の経験や教訓として蓄積することを一つの目的にしています。言うならば現場対応の手作りの論考集であり、個別事例を当事者の知力と体力で解決するための事例研究集であります。現在の大学教育問題を、いわゆる専門研究者による学問的な検討・考究によって、高等教育論を構築し、世の参考に供すという種類の専門学術雑誌ではありません。それだけに、学術論文としての論理性や説得力には欠ける面もあるかもしれません。しかし、その反面、野性味に長けた荒削りの直感的な問題意識とあくなき挑戦の記録集としては、精彩を放っていると、自負しています。

ところで、今日の大学教育改革の源流は、平成3年に出席した大学審議会の答申「大学の個性化」に求められます。全国の大学に、護送船団方式を組ませ、教養部の廃止や自己点検評価を導入し、その返す刀で各大学の個性化を求めたのです。しかし、この路線での改革を進めれば進めるほど、全ての大学は全国共通の競争に参加し、少しでも勝ち残ることにしか生き残るすべを見出せなくなってきました。この現実間違いなく各大学を脱個性化させ、他の大学との比較なしには、自大学を診断することが出来ない状況に落とし込んでいるといえます。

一方、学生の大学教育に対する関心、動機、期待等は限りなく多様化していますので、大学が用意すべき教育目標、教育課程、内容、方法等は受け入れる学生に対応した多様なものでなければならず、大学、学部あるいは学科ごとに異なる特異なメニューとして提供されなければならない状況にあります。全国横並びの統一的な発想では現場の教育は成り立たないことだけは確かとなりました。

今日の大学教育は自主独立路線で改革改善しなければ、その目的を果たすことが出来ないのです。身の丈にあった改革改善を手探りで進めることこそが、最も効果的で実質的な大学教育の改革・改善の方策であると、私は了解している。汗まみれ、油まみれ、土まみれ、血まみれになって、全身で立ち向かうところに不可能はないと信じています。このような試行錯誤の過程の公開こそが、大学教育の改革・改善を進めるための第一次情報として有益であろうと思います。このような意図も「中部大学教育研究」には託されているのです。

毎号、特別寄稿として、本学の客員教授であります寺崎昌男先生と飯吉透先生に、その時々

の大学教育問題を歴史的また国際的な観点から論点整理し、その上で先行事例を分析しながら、いろんな解決策を示唆していただいています。点として孤立することなく、歴史性と国際性のネットワークに取り込まれた一点として、本学の教育活動を開拓する上でも、たいへんな刺激を与えていただき、感謝しています。

本研究報告書は1大学が発刊した研究報告書ですが、これらの研究の根底にあります課題意識は間違いなく今日の多くの大学教育が当面している問題であろうと推察しています。多くの教育関係者の一読を期待し、教育問題の解決の一助になれば幸いです。

2006年12月

学 長 山 下 興 亜